

1 いちご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
うどんこ病	—	少	・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) ・向こう1か月の日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
灰色かび病	—	やや多	・巡回調査の結果、複数ほ場で発生がみられ、一部多発生しているほ場も確認された。発生地点率及び発病株率は平年よりやや高かった。(/ +) ・向こう1か月の日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
ハダニ類	—	やや少	・巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く(/ -)、寄生株率は平年並であった。(/ ±)
コナジラミ類	—	平年並	・巡回調査の結果、一部で一複葉当たりの成虫寄生頭数が多いほ場が確認されたが、調査地点全体では発生地点率及び成虫寄生株率は平年並であった。(/ ±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：少くなる要因 (空欄)：該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
次回、発生予報第13号の発行日は令和5年3月17日(金)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

トップページ



登録フォーム

ー3月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:2月 13～14 日

天候予報:仙台管区气象台2月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。
- (2)向こう1か月の日照時間はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、複数ほ場で発生がみられ、一部多発生しているほ場も確認された。発生地点率及び発病株率は平年よりやや高かった。
- (2)向こう1か月の日照時間はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、寄生株率は平年並であった。

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、一部で一複葉当たりの成虫寄生頭数が多いほ場が確認されたが、調査地点全体では発生地点率及び成虫寄生株率は平年並であった。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・軟弱徒長株はうどんこ病が発生しやすく、過繁茂は灰色かび病の発生を助長するとともに、薬剤の散布ムラが生じやすくなるため、適切な肥培管理に留意する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的なローテーション散布を行う。

エフラック

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。

アイラック

※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・使用する薬剤は訪花昆虫(ミツバチ等)への影響日数に注意して選択する。
- ・いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までをカウントする。
- ・気門封鎖型薬剤や天敵製剤等、IPMに関する防除については下記の普及に移す技術を参照。
※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版(PDF:6,731KB)
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html
- ・薬剤については、『令和4年度宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・多発すると防除が困難になり、収量にも影響するため、発生初期から防除を徹底する。
- ・発病果は品質を低下させるとともに、伝染源になるので、見つけ次第除去し適切に処分する。

(3)灰色かび病

- ・発病果や発病葉は、伝染源になるので見つけ次第除去し、適切に処分する。
- ・ハウス内が多湿になると発生が助長されることから、温度管理やかん水を適切に行う。
- ・株が混み合わないよう不要な下葉は整理し通風をよくする。

(4)ハダニ類

- ・多発すると防除が困難になるため、ほ場をよく見回り、発生初期から防除を徹底する。
- ・気門封鎖型薬剤は物理的に作用する薬剤であり、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布することが重要である。
- ・天敵のチリカブリダニは即時的な効果が期待でき、追加放飼を行うことでハダニ類を抑制することができる。ただし、放飼してから防除効果が現れるまでに数日を要するため、導入するには薬剤散布等でハダニ類の密度を極力低下させておく必要がある。詳細については「宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版」を参照のこと。

(5)コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、ほ場をよく見回り、発生初期から防除を徹底する。
- ・本ぽでラノーテープを用いる場合は、雌成虫が接触しないと効果が発揮されないため、作物の直上部に、草丈に合わせて展張する。
- ・ラノーテープを使用しているほ場でも密度が高い場合は、薬剤散布により適切に防除する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム